

中小企業地域資源
活用促進法に基づく



ふるさと名物
Furusato Meibutsu

わが市町村の
ふるさと名物は
これ!

別府竹細工



別府市竹細工伝統産業会館所蔵品
「雲龍」田辺 幸竹斎 作

大分県別府市 が応援するふるさと名物

◎「別府竹細工」の作品群
～室町時代から湯治文化とともに
に発展し今も日用品から世界へ
誇る美術品まで～





大分県別府市

地域の プロフィール



九州の北東部、大分県の東海岸のほぼ中央に位置する別府市は、鶴見岳から別府湾に向かって広がる扇状地に発達した都市です。

市内には別府八湯と呼ばれる八つの温泉郷があり、湧出量と源泉数は日本一を誇り、近年では世界中から年間800万人が訪れる観光都市です。また、留学生も多く、面積における外国人の数も日本一になるなど国際色も豊かな人口約12万人の都市です。

豊富な温泉に恵まれた温泉地としての歴史は古く、室町時代からその効能を求めて湯治客が訪れていました。

現在も豊富な温泉資源を生かされており、観光産業が主な産業となっており、国内外から多くの観光客が訪れています。



1

主な地域資源



◆別府竹細工

別府の竹細工は、大分県が生産量全国第1位を誇る良質のマダケを主な材料として用途に応じてハチク、クロチク、ゴマダケ、メダケなどを使用します。

伝統的な技術技法が洗練されたデザインに生かされ、テーブルウェアなどの生活用品から美術工芸品まで幅広く、数多くの優れた製品が作られています。

竹細工を技術的に昇華させ、造形を高めた作家が輩出され、昭和42年には「生野祥雲斎」が竹工芸で初めて人間国宝に認定されました。また昭和54年には大分県で唯一、通産省(現:経済産業省)から「伝統的工芸品」に指定され、全国的な名声を得ることになりました。

その伝統技術は途絶えることなく現在に受け継がれ、更なる進化、発展を目指しています。

2

ふるさと名物

○別府竹細工の作品群

◆別府竹細工の歴史

「別府竹細工」の起源は、人皇第12代景行天皇が九州熊そ征伐の帰りに別府に立ち寄った際、お供の膳伴(台所方)が、良質のシノダケが多くあることを発見して、メゴ(茶碗かご)を作ったことが始まりとされています。

江戸時代に入ると「別府温泉」の名が全国に広まり、湯治客が滞在中に使用する台所用品が土産物として売られるようになり、市場の拡大とともに地場産業として定着していきました。

◆生活用品から美術工芸品へ

産業としての発展に伴い、技術者の養成を目的として別府工業徒弟学校(現:大分県立大分工業高校)が設立され、多くの技術者が輩出されました。

この技術者たちは別府の竹工芸をレベルアップするリーダーとなり、大衆的工芸と別に美術工芸という高い次元の工芸品の道を開拓することになりました。

美術工芸展、生活デザイン展などで多数の受賞者を出し、その優秀さが認められてくるなか、昭和42年に「生野祥雲斎」が竹工芸では初めての人間国宝に認定されました。

ふるさと名物の内容

◆竹産業の変遷

生活用品としての市場を拡大し、発展を続けるとともに、美術工芸品として注目されてきた「別府竹細工」ですが、安価なプラスチック製品や海外産製品の登場により大きな打撃を受けました。しかしながら、それまでに蓄積された高度な技術と市場の変化に対応する活力をもった「別府竹細工」は高級竹製品への転換を図り、他の生活用品とは一線を画していきました。

現在では伝統へのこだわりや手仕事の技術が見直され、再び注目されています。

◆竹産業の未来

「別府竹細工」は伝統工芸技術を継承しつつも、現代生活にマッチした製品生産を行うなど、現在も発展を続けています。また、日本国内のみならず、海外のニーズにも目を向けた展開を図るとともに、次世代に受け継がれる技術の開発も行っています。

「別府竹細工」のブランド確立のため、新たな製品の開発を促進し、販路開拓を行い、地域に根ざした持続性のある産業として発展させ、地域活性化に繋げることを目指し、ふるさと名物応援宣言をします。

別府市の取り組み①

1

竹細工伝統産業会館

◆別府市竹細工伝統産業会館

昭和54年に通産省（経済産業省）から「伝統的工芸品」の指定を受け、竹資源の有効活用や伝統技術の保護、育成を行う拠点として、平成6年6月に旧工芸研究所の機能を引き継ぎ開館し、「別府竹細工」の更なる普及を目指しています。

館内では「歴史」「素材」「技法」「芸術」などのコーナーを設置して、人と竹との関わりを総合的に展示しています。また体験学習などを行い、「別府竹細工」の魅力を知ってもらう事業も行っています。

後継者の確保、育成や伝統技術の継承を目的として、別府市民を対象に「竹の教室」を開催しています。



会館の外観



展示:「竹のお駕籠」



展示:「雲龍」



竹の教室

2

独自の支援策

◆別府竹製品新製品開発事業

大分県で唯一、伝統的工芸品に指定されている「別府竹細工」の伝統や技法を継承しつつ、アドバイザーを招致し、新技術、新素材等の研究を行い、新たな付加価値をもった竹の魅力を発信できる製品の開発を行っています。マーケティングや市場が求めている製品(需要)と作家がつくった作品(供給)のマッチングを図っていくことで技術向上と販路拡大を目指しています。

◆竹産業・ものづくりイノベーション事業

平成28年度から、竹産業・ものづくりイノベーション事業を実施し、プロモーションビデオやホームページの充実による認知度向上などに取り組み、更なる発展を目指しています。



別府竹製品新製品開発事業

3

広報・タイアップ

◆別府竹製品協同組合

昭和53年 別府竹細工の発展、振興及び技術向上、情報共有を目的として設立。
昭和54年 「伝統的工芸品」の指定を受ける際「産地組合」となる。

後継者育成事業や官民で組織した「竹・ルネサンス実行委員会」の中心的役割を担っています。国内外で展示会、イベント等を実施するほか、体験学習、竹の教室に講師派遣を行うなど積極的に市民との触れ合いを行っています。平成27年2月には伝統工芸士が新たに3名誕生し、現在15名の伝統工芸士が活躍しています。

◆竹・ルネサンス事業

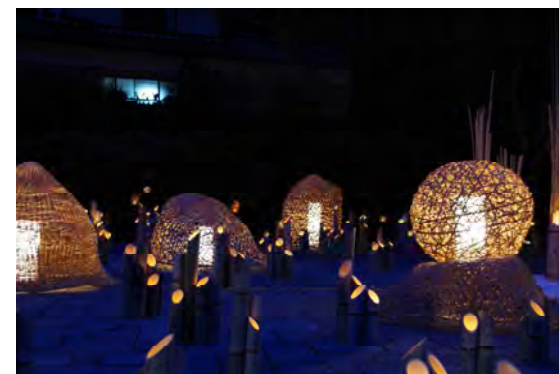
竹・ルネサンス実行委員会が主催する展示会・イベント等を年5回程度別府市竹細工伝統産業会館にて開催し、市民、観光客に好評を得ています。



制作作業



くらしの中の竹工芸展



竹と月夜の調べ